

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3月 14日

事業所名 社会福祉法人神原苑 小野田障害デイサービスセンター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1		
	2	職員の配置数は適切である	8		加配加算の要件を満たす職員配置を行っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8		バギーが通れる広さを確保している。	多少の段差はあるが車椅子、バギーの移動は可能であるが、建物の構造上難しい点もある(トイレ)
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		年度初めと末に全員で行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		保護者の意見を職員が共有し、それに向けて話し合いを行い、支援計画(業務計画)に取り組むようにしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		法人のHPにて公開し、文書にて保護者に発信している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		保護者、職員の実施はしているが、外部評価は出来ていない。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		通常の研修の他にその時々に必要な研修を考え、年9回以上行い資質向上に努めている。また、職員だけでなく利用者や保護者を変えた参加型の研修を行っている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	1	保護者にて聞き取りを行い、控えを配布している。	保護者のニーズが優先されている為、子ども(本人)のニーズを聞き取る等の努力が必要と思う。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	3	聞き取り、台帳はあるが、細分化されたものはない。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		会議で話し合いながら、チーム一人一人が案を出し、よりよい活動プログラムを年度末に考え、次年度につなげている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		療育業務が中心になり、マンネリ化しないよう新しい活動を取り入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		反省も含めて改善しながら、また土日等はその日の利用者の特性に応じた活動を考え支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		活動がマンネリなことなく、利用者(個々)が必要としている事、利用者に合わせて活動を組み込んでいる。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		支援内容や方法を職員間で統一する為、各職員は個別支援計画に目を通している。また、朝礼で伝達している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1		支援終了後は難しい為、次の日の朝礼時に気づきや問題点を職員間で発信、共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		日々の支援内容は記録に残し、必要であれば改善するよう取り組んでいる。特記事項についても必要時記録している。	
18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		定期的なモニタリング以外にも、その都度必要性があれば随時行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7		療育活動や余暇時間を設けている。集団活動では、季節に合った活動も組み込んでいる。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3月 14日

事業所名 社会福祉法人神原苑 小野田障害デイサービスセンター

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		担当職員が出来るだけ出席している。出席後は会議等で全職員へ情報共有している。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		学校のHPを都度確認している。HP記載しておらず不明な際は学校教諭に確認をとるようにしている。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	3		現在、医療的ケア児が在籍していないが、受け入れる場合は体制を整えていく。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	4		現在、年度初めて利用開始する利用者がいない為行っていないが、必要時は情報共有有り、相互理解に努める。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7			同じ法人での移行であれば情報提供をしているが、違う場合は出来ない。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	定期的に研修を受けている。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7		直接的な関わりはないが、図書館の読み聞かせ等、障害の有無に関わらない催しに参加している。	保護者のニーズがあれば考えていかなければならない。以前児童館での催しに行く予定であったが、コロナで中止となり、行けていない。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	5	委員になった際には積極的に参加している。	
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1	カンファレンス以外にも、送迎の際、状況を伝え合える時間を持ち、同時に方向性の確認をしている。	
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		7		対応力の向上は必要である。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		利用契約時に説明している。また、必要に応じて紙媒体で配布している。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	2	難しい場合には他職員や管理者へ相談し、対応している。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	5		父母の会や保護者会は実施していない。事業所参観は年3回実施し、保護者同士が関わられる機会はある。参加率が低い為、内容の改善が必要である。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1		
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		月1回広報誌を発行し、行事予定や前月の行事、療育の様子等発信している。また、SNSでも活動の様子を発信している。	
	35 個人情報に十分注意している	8		採用時に個人情報に関する誓約書を一読し、サインをもらっている。個人情報の同意書を得ていない家庭には十分配慮している。保護者に利用者の個人名は出さず、中学生の男児等で伝えている。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3月 14日

事業所名 社会福祉法人神原苑 小野田障害デイサービスセンター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		視覚的支援や口頭、ジェスチャー、文字等、必要な支援を行い、意思疎通や情報伝達を円滑に出来るよう配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7		地域住民にも声を掛け、招待している。	毎年交流会行事を行っていたが、コロナで中止となる。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1		それぞれ策定はしており、職員間では周知出来ているが、保護者は不明である為、再度周知を図る必要がある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		年に数回、建物内全員(その日の出勤職員及び利用者)で実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		年に一回以上、虐待防止、権利擁護に関する研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7		支援計画聞き取りの際に了承を得て、計画書の合意事項欄に記載している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	アレルギーがある人に対しては、品目に当てはまるものは提供していない。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		見守り時や送迎時等で発声した際は、報告書を作成し職員全員で対策を考えている。	